

# 平成 26 事業年度に係る業務の実績に関する報告書

平成 27 年 6 月

国立大学法人  
富 山 大 学



## 目 次

大学の概要	1
全体的な状況	3
項目別の状況	
I 業務運営・財務内容等の状況	
(1) 業務運営の改善及び効率化	
① 組織運営の改善	10
② 事務等の効率化・合理化	12
特記事項等	13
(2) 財務内容の改善	
① 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加	14
② 経費の抑制	15
③ 資産の運用管理の改善	16
特記事項等	17
(3) 自己点検・評価及び情報提供	
① 評価の充実	18
② 情報公開や情報発信等の推進	19
特記事項等	20
(4) その他業務運営に関する重要事項	
① 施設設備の整備・活用等	21
② 安全管理	22
③ 法令遵守	23
特記事項等	24

II 予算（人件費見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画	26
III 短期借入金の限度額	26
IV 重要財産を譲渡し、又は担保に供する計画	26
V 剰余金の使途	27
VI その他	
1 施設・設備に関する計画	28
2 人事に関する計画	30
別表（学部の学科，研究科の専攻等の定員未充足の状況）	32



## ○ 大学の概要

### (1) 現況

#### ① 大学名

国立大学法人富山大学

#### ② 所在地

本部	富山県富山市
五福キャンパス	富山県富山市
杉谷（医薬系）キャンパス	富山県富山市
高岡（芸術文化系）キャンパス	富山県高岡市

#### ③ 役員の状況

学 長 遠藤 俊郎

（平成 23 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

理 事 6 人

監 事 2 人（非常勤 1 人含む）

#### ④ 学部等の構成

（学 部）人文学部，人間発達科学部，経済学部，理学部，医学部，薬学部，工学部，芸術文化学部

（研 究 科 等）人文科学研究科，人間発達科学研究科，経済学研究科，芸術文化科学研究科，生命融合科学教育部，医学薬学教育部，理工学教育部，医学薬学研究部，理工学研究部

（附置研究所）和漢医薬学総合研究所※

（附属施設等）附属病院，附属図書館，地域連携推進機構，保健管理センター

（学内共同教育研究施設）総合情報基盤センター，水素同位体科学研究センター，自然科学研究支援センター，生命科学先端研究センター，極東地域研究センター，環境安全推進センター，自然観察実習センター，臨床研究・倫理センター，国際交流センター，学生支援センター，キャリアサポートセンター，アドミッションセンター，大学教育支援センター

（附 属 学 校）人間発達科学部附属幼稚園，人間発達科学部附属小学校，人間発達科学部附属中学校，人間発達科学部附属特

### 別支援学校

（学部附属教育研究施設）人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センター，薬学部附属薬用植物園

（附置研究所附属研究施設）民族薬物研究センター

（注）※は，共同利用・共同研究拠点に認定の附置研究所を示す。

#### ⑤ 学生数及び教職員数

（学生数） ※（ ）内は留学生数で内数

学部学生：8,196 人（112 人）

大学院生：1,070 人（180 人）

（教員数）： 975 人

（職員数）： 1,253 人

### (2) 大学の基本的な目標等

富山大学は，富山県内の 3 つの国立大学（旧富山大学，旧富山医科薬科大学，旧高岡短期大学）の再編・統合により，3 大学の特徴を活かしつつ，活力ある総合大学を築くために，平成 17 年 10 月に設立された。その理念と基本的目標は次の通りである。

#### 【理念】

富山大学は，地域と世界に向かって開かれた大学として，生命科学，自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い，人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し，地域と国際社会に貢献するとともに，科学，芸術文化，人間社会と自然環境との調和的発展に寄与する。

#### 【目標】

富山大学が全学的に重視する目標は，教養教育と専門教育の充実を通じて，幅広い職業人並びに国際的にも通用する高度な専門職業人を養成することである。本学の特色は知の東西融合を目指すことにあり，この点を生かしつつ，地域と世界の発展に寄与する先端的な研究を推進する。そして，東アジア地域をはじめ諸外国の教育研究機関と連携しつつ，国際的な教育・研究拠点となることを目指す。また，地域と時代の課題に積極的に取り組み，社会の要請に応える人材を養成し，産学官の連携と地域への生涯学習機会の提供などを通じて，地域社会への貢献を行っていく。

(3) 大学の機構図

平成26年度



平成25年度



○ 全体的な状況 (1)
--------------

## 1. 教育研究等の質の向上の状況

## (1) 教育に関する取組

## ○教育内容及び教育の成果等に関する取組

- ・ 学位授与方針及び教育課程編成方針について、オリエンテーション、履修の手引き及び本学ホームページ等を利用し、学生へ周知した。
- ・ 大学院理工学教育部において、医薬系にも通じた技術者の育成を目的とした、文部科学省特別経費プロジェクト「地域の産学官が連携するファーマ・メディカルエンジニア養成プログラム」に対応したカリキュラムを作成・実施した。履修生が官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」第1期生に採択され、バーゼル大学薬科学科に留学した。
- ・ 文部科学省特別経費プロジェクト「伝統文化を起点とした実践的教育モデルの構築」で8つのプロジェクトを立上げ、大学院及び学部教育において、学内の講義や実習では習得できない体験型教育実習を補完し、地域連携教育を充実させた。

## ○教育の実施体制等に関する取組

- ・ 大学院医学薬学教育部看護学専攻（博士後期課程）について、平成27年度の新設が認められた。（3.「今後の国立大学の機能強化に向けての考え方」を踏まえた取組状況p9, 参照）
- ・ 教職大学院について、平成28年度設置に向けて設置申請を行った。（3.「今後の国立大学の機能強化に向けての考え方」を踏まえた取組状況p9, 参照）
- ・ 芸術文化学部では、これまで学生が自主的に取り組んできた地域と連携した活動を、新たに「プロジェクト授業」という科目カテゴリーとして単位化した。また、地域連携の内容を持つ既存の授業については、「地域連携授業」として一定額の経費を配分する支援体制を整え、実施した。

## ○学生への支援に関する取組

- ・ アクセシビリティ・コミュニケーション支援室において、発達障害のある学生及び身体障害のある学生に対して、履修指導、修学状況確認、教員との連絡・調整等の修学サポートを継続的に行った。
- ・ キャンパス構内のバリアフリー状況をまとめた、富山大学アクセシビリティ・マップ（五福キャンパス・高岡キャンパス）を作成した。
- ・ 医薬学図書館の増築改修工事（12月竣工）に伴い、協働学習のためのラーニングcommons及びグループ学習室の新設、閲覧席倍増等の整備を行った。これにより、12月～3月の入館者数が、88,533人（前年同期間67,093人）と、大幅に増加した。
- ・ 五福キャンパス大学食堂の増改築、杉谷キャンパスの福利棟（食堂）の改修により、昼食時の混雑緩和やバリアフリー化を行い、快適で魅力あるキャンパス環境を整備した。
- ・ グローバル人材の育成に努めるため、「富山大学国際インターンシップ導入方針」を作成した。また、一般社団法人中部産業連盟と連携し、留学生向けの就職説明会を企画・実施するなど、キャリア支援・就職支援を充実させた。
- ・ 初の富山大学基金事業として「学生海外留学支援プログラム」をスタートさせ、同プログラムに採択した学生4人に奨学金を支給し現地での修学を支援した。【14】
- ・ 学生支援経費18,400千円を確保し、学生表彰や学生が企画したプロジェクト支援、課外活動支援を充実させた。

## ○ 全体的な状況（2）

### (2) 研究に関する取組

#### ○研究水準及び研究の成果等に関する取組

- ・ 研究開発プロジェクト「社会資本の活性化を先導する歩行圏コミュニティづくり」では、本学の自立支援器具研究部会が開発し、富山県内企業が製品化に取組んだ「歩行補助車」が、グッドデザイン賞を受賞した。
- ・ 医薬工連携関係では、“ハンガー反射”対応治具の製品化を国立大学法人電気通信大学と連携して行い、富山県内企業での製品化に向けた許認可段階までサポートした。
- ・ 西アフリカで発症したエボラ出血熱の治療薬として効果のあった、抗インフルエンザ薬「アビガン」について、富山県内企業と共同開発を行った。
- ・ 水素同位体科学研究センターにおいて、自然科学研究機構核融合科学研究所の双方向型共同研究に参画し、関係機関との研究プロジェクト（11件）を実施した。また、一般共同研究を行い、共同研究機関と共に研究プロジェクト（23件）を実施した。
- ・ 若手研究者の研究水準の向上を目指し、ほくぎん若手研究者助成金（5,000千円）を活用して、若手研究者の研究（8件）を支援した。
- ・ 富山第一銀行奨学財団助成金（8,500千円）を活用し、富山県の活性化等に貢献する研究活動（10件）を支援した。

#### ○研究実施体制等に関する取組

- ・ 公募型外部資金獲得及び重点推進プロジェクトの支援等の業務を行うため、「研究企画推進本部」を設置し、その業務を遂行する組織として「研究戦略企画室」を置き、研究者の相談体制の強化を行った。【13】
- ・ 先端ライフサイエンス拠点において採用したテニユアトラック教員について、テニユア審査を行った結果、平成27年度から4人を本学の常勤教員として採用することとし、若手研究者の育成及びキャリア支援に努めた。

- ・ 新たに「学長裁量経費による研究員の取扱い」を策定し、本学の大学院博士課程を修了したポスドク4人を採用することにより、創造性に富んだ若手研究者の育成を推進した。

### (3) その他の取組

#### ○社会との連携や社会貢献に関する取組

- ・ 富山県教育委員会との連携事業として、公立学校教員の採用内定者180人を対象に、教員に必要なコミュニケーション能力・対人関係力・授業実践力などのベースとなる社会人基礎力や、豊かな人間性の涵養に役立たせる「教師準備プレ講座」を実施した。
- ・ 小学生・中学生を対象とした薬剤師体験型学習「未来の薬剤師大集合!!!」（受講者312人）を、富山県厚生部くすり政策課及び富山県教育委員会と協議のうえ実施した。
- ・ 魚津市と協働して実施している「第三期魚津三太郎塾」において、初級コース修了生をよりレベルアップさせるため、平成26年度から中級コースを開設し、コミュニティービジネスを実践することにより、魚津の自然を守り、育み、活用する地域再生人材の育成を図った。
- ・ 高岡市との共同主催により、企業・金融・行政・大学が地域課題を共有し、ビジネス手法を用いて解決していくことを目標として「たかおか共創ビジネス研究所」を設立した。高岡発の地域イノベーションの創出を目指し、第1期は8名の研究生が修了した。また、平成27年2月から第2期9名の研究生を受入れ、地域の課題解決に資する地域活性化プロジェクトを開始した。
- ・ 高岡市と連携して、「金屋町楽市 in さまのこ 2014」を開催し、町全域を使った生活空間内での展示・販売を行うことにより、工芸×生活×産業が同居するゾーンミュージアムを実施した。



## ○ 全体的な状況 (3)

- ・ 創造的人材を育てる地域連携教育として、富山県西部の自治体 6 市と連携して、地場産業の経営者や起業者を対象とした「富山県デザイン経営塾」を開催した。
- ・ 南砺市と協働して、地域住民参加型の医療システムの構築を目的に、地域住民や地域の団体等が地域医療のノウハウを学ぶ「地域医療再生マイスター養成講座」を実施し、1 期から 6 期で延 260 人のマイスターが修了した。また、平成 26 年度には富山市でも「健康まちづくりマイスター養成講座」を初めて実施し、第 1 期 140 人が修了した。なお、オール富山・地域包括ケアシステムを構築するために、高岡市や朝日町でも「健康まちづくりマイスター育成事業」として健康フォーラムを開催し 671 人の住民が参加した。
- ・ 社会人を対象とした産学連携人材育成事業「次世代スーパーエンジニア養成コース」において、平成 26 年度から「プラスチック産業特論」をカリキュラムに新たに加えた結果、受講者数が 13.5%増加した。
- ・ 報道機関 4 社との包括連携協定を締結し、本学の教育・研究・社会貢献機能と、地域の報道機関の報道・媒体・情報機能を連携させて充実した協力を行うとともに、富山県内の様々な地域課題等を研究・分析・報道することにより、社会に成果を還元し、地域の再生・活性化に向けた取り組みを行っていくことを確認した。
- ・ 産学官及び金融機関が有する情報や知識・経験の共有を図り、地域の産業振興や雇用の拡大につながる人材育成を軸とした、新たな地域アクティビティの創出を目的に産学官金ネットワーク会議を新たに開催し、産学官金コラボ塾、研究者人材バンク、スマートスケジュールの 3 つの事業を実施した。
- ・ 従来のリエゾン活動において、コーディネーター (CD) の担当を 3 類型 (CD アカデミック、CD ビジネス、CD コミュニティ) とし、活動の軸足の

置き方や、カウンターパートである地域の各セクターの役割を明確にし、優先順位をつけた上で、研究室訪問 (229 回) 及び企業訪問 (188 回) を行った結果、平成 25 年度より共同研究 24 件、受託研究 7 件が増加した。

## ○国際化に関する取組

- ・ 平成 26 年度に終了した大学の世界展開力強化事業 (キャンパス・アジア中核拠点支援) は、補助期間中に次の成果をあげた。
  - ・ 「和漢薬領域を基盤とした高度職業人育成事業」として大学院医学薬学教育部 (薬学系) の博士課程に「高度職業人育成コース」を設置し、日本人学生とアジア地域の学生が切磋琢磨して教育を受けるカリキュラムを組み、改善しながら定着してきた。
  - ・ 薬学系大学院では初めてとなるインターンシップ実習を導入した。  
このコースに関しては、毎年、補助事業外部評価委員会を開催し、インターンシップのあり方等を検証し、学生への教育効果を確認しており、平成 27 年度以降は、補助事業外部評価委員会を当該コースの外部評価委員として継続し、富山県内の病院及び製薬企業等との連携強化を一層図ることを確認した。
- ・ 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) の「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」 (さくらサイエンスプラン) に採択され、インドネシア・ハサスディン大学から研究者 1 人、学部学生 8 人及び大学院学生 2 人、タイ・コンケン大学から研究者 1 人、学部学生 6 人及び大学院学生 3 人を招聘し、日本の最先端科学技術への関心を高める機会を提供した。
- ・ 独立行政法人国際協力機構 (JICA) の「草の根技術協力 (地域経済活性化特別枠) 事業」として、委託事業「ミャンマーにおける伝統医薬品の品質改善を通じたプライマリーヘルスケア向上事業」を平成 26 年度から実施した。

## ○ 全体的な状況 (4)

- ・ 若手育成を念頭に、研究者及び教職員対象の、英語による論理的な文章作成や学生指導のための知識・技術習得等を目的とした、英語研修プログラム「アクセプトされる論文の書き方ワークショップ」、「アカデミックライティング」、「英語論文の書き方セミナー」を実施し、84人の受講があった。

### ○ 附属病院に関する取組

#### 【教育・研究面】

- ・ 病院長と研修医との懇談会(3回)、臨床研修担当者会議等を通じて、研修プログラムの充実を図った。また、医学生(5,6年次生)に対する臨床研修説明会、懇談会や個別面談を継続的に行い、臨床研修プログラムの特徴を積極的にPRし、初期臨床研修希望者の増加に努めた結果、平成21年度と比べて、初期研修医は21%、後期研修医は22%増加した。
- ・ 研修医及び教職員を対象とした、イブニングセミナー(18回)、実技セミナー(3回)、外国人講師による講演会(3回)等、多彩なセミナーを実施し、初期臨床研修の充実を図った。
- ・ がん細胞を熱で死滅させる「温熱療法」に係る新型治療機器について、国内初となる複数診療科での臨床試験を開始した。

#### 【診療面】

- ・ 新たに「地域連携のご案内」を作成し、関連の医療機関に配布して患者紹介の促進を図った結果、紹介率が10.2%向上し80.96%となった。
- ・ 手術部に薬剤師を配置し薬剤管理業務を行うことにより、麻酔科医が麻酔業務に専念できる体制とし、医師の負担軽減を図るとともに手術件数の増加(280件増)につなげた。
- ・ 平成27年1月から、新電子カルテシステムの運用を開始し、診療の利便性が向上した。

- ・ 病院情報ネットワークシステムの更新により、放射線関連画像、超音波関連画像、動画像等の大容量データ処理が高速に対応できるようになり、処理能力が格段に向上した。無線LANエリアも大きく拡大し、より安全で安定した診療環境に向上した。
- ・ 延入院患者数は、対前年度10,488人の増、目標に対しては606人の増となっており、診療報酬請求額は、対前年度445,090千円の増となった。

#### 【運営面】

- ・ 女性医師等の勤務継続支援・復帰支援を平成26年度も継続して実施し、女性医師等の育児休業からの高い復帰率(平成26年度の育児休業者の復職率:95.8%)を維持した。
- ・ 医療安全教育の取組みとして、医療安全研修に受講出来なかった職員に対し、ビデオ研修会の開催回数の増加や、e-ラーニングによる受講を促した結果100%の受講率となった。
- ・ 事業者が立体駐車場の建設及び建設後の維持管理・運営にかかる費用を受益者負担(外来患者用駐車場の利用者から徴収する駐車料金)にて賄い、大学の経費負担を不要とした立体駐車場が、平成26年12月に供用を開始した。これにより、降雪期等における患者の利便性の向上が図られるとともに、駐車台数が約150台分増え、駐車場不足の解消につながった。【23】
- ・ ヘリポート工事が完了し、平成27年度以降の運用と救急対応体制が整った。
- ・ 平成26年度取り組む課題「医療安全活動計画書」を挙げ、成功例を医療安全講習会で発表し、医療現場へのフィードバックを図った。また、発表内容を基に、優秀な取組に対して病院長賞等の表彰を行った。
- ・ 「感染対策室」を「感染制御部」に改組し、病院全体の感染予防対応を組織的に整備した。

## ○ 全体的な状況 (5)

- ・ 痛みセンターを設置し、疼痛性疾患に対する診療科横断的な協力体制を整えた。

### ○ 附属学校に関する取組

#### 【教育課題】

- ・ 学校評議員会，PTA 役員会，保護者懇談会での意見交換及び保護者アンケートの結果を基に行った評価により，学習や生活の指導の意図を生徒及び保護者に十分に伝えることや，個別の指導を一層充実させることに取り組んだ。
- ・ 特別支援学校では，来校した作業療法士，理学療法士から運動機能等の指導を受けた他，スクールカウンセラーや卒業生の保護者からの話を聞く機会を保護者スクールで設けるなど，保護者や地域関係者の専門的知識を取り入れた教育を行った。

#### 【大学・学部との連携】

- ・ 大学・学部との 13 件の共同研究プロジェクトの実施に加え，ICT の教育利用に関する研究プロジェクトを発足し，児童・生徒の学習意欲や学力を高めるための効果的な学習方法について研究を行い，附属学校における授業の質が向上した。

#### 【附属学校の役割・機能の見直し】

- ・ 「平成 26 年度教育課程研究指定校事業」に採択されたことに伴い，保育記録の積み重ねと分析を行った。その結果を教育要領改訂の基礎資料として，国立教育政策研究所に提出した。また報告書を作成し，県内外の教育機関や幼稚園等にも発信した。
- ・ 公立小学校の校内研修への講師派遣や，学習評価問題や学習指導案の作成を通じて助言を行うほか，教育研究協議会の開催や研究授業の公開を行い，地域の学校教育の改善に貢献した。

### ○ 附置研究所「和漢医薬学総合研究所」に関する取組

#### 【共同利用・共同研究拠点としての取組や成果】

- ・ 公募型共同利用・共同研究を継続して実施し，一般研究Ⅰ（6 件）・一般研究Ⅱ（2 件）・探索研究（7 件）・研究集会（1 件）を採択し，新たに「漢方薬が有する複雑系の解析」を研究テーマとする特定研究（5 件）を実施した。研究成果については，論文 74 報を公開，学会発表 199 件，学術講演 112 件の発表等を行った。
- ・ 抗生物質フェガノマイシンの生合成研究を通して，鎖長と配列が異なる多種多様なペプチドの N 末端を，非タンパク性アミノ酸でキャッピングする新規酵素を発見した。ペプチド医薬品の生体内での分解や，漢方薬の複雑な薬効発現メカニズムの解明における，プロテオーム解析でのペプチドの分解を抑えるツールとして利用できることが期待される。
- ・ 生薬の遺伝子解析，生薬・漢方方剤の網羅的成分分析及び生物活性試験に関する結果等を登録したデータベースを構築し，一般に公開した。和漢薬・伝統医薬に関する複数の情報を，データベースとしてまとめているサイトは世界初であり，天然薬物の国際的標準化に資するのみならず，創薬シードの開拓に貢献することが期待される。（和漢薬データベースアクセス件数：和漢薬データベースポータルサイト 74,915 件，伝統医薬データベース 102,548 件，和漢薬 Wiki データベース 78,091 件，民族薬物データベース 487 件，証類本草データベース 865 件）
- ・ 人材養成として，和漢医薬学領域と先端生命科学領域との共同研究等を通して，和漢医薬学に精通して最先端の生命科学技術を理解する人材，先端生命科学領域の中で，和漢医薬学の特徴である天然物や多成分薬剤を理解する人材を育成した。また，伝統医薬学コンソーシアムを活かし，国内外の研究機関の若手研究者を受け入れる公募型共同研究Ⅱ（国際的共同研究，人材育成枠）により，和漢医薬学に関わる研究者を育成した。

## ○ 全体的な状況 (6)

- 和漢医薬学の科学基盤を確立するため、国内外の研究機関との間で和漢医薬に関する共同研究を実施するとともに、生薬エキス・生薬含有化合物からなる和漢薬ライブラリーを用いた各種生物活性研究を実施し、得られた研究成果を、学術情報とともに和漢薬データベースに収載し、公開した。

### 【研究所独自の取組や成果】

- 和漢医薬学領域における、国際ハブ研究拠点としての共同研究活動を推進するため、海外 4 機関に設置した国際協力拠点（中国・北京大学医学部薬学院、中国・南京中医薬大学薬学院、タイ・チェラロンコン大学薬学部、エジプト・カイロ大学薬学部）及び、部局間協定を締結する 6 か国 9 機関との国際共同研究を積極的に実施し、得られた成果を国際学術雑誌に公開した。特に、富山大学・北京大学医学部薬用資源研究国際協力センターとは、生薬（菝葜、百部、細辛、三七人參、党参等）の資源となる薬用植物の合同調査と多様性解析研究を行い、生薬の有効性と安全性の担保及び、標準化に関する新知見を得た。これらの成果の一部は、日本薬局方及び日本薬局方外生薬規格の作成に貢献した。
- 民族薬物資料館が中心となり、中学生及び高校生を対象とした研究成果の社会還元・普及のための事業「ひらめき☆ときめきサイエンス」の一環である、「和漢薬ってこんなに身近にあったんだ！～杉谷の里山で和漢薬体験～」や、小学生を対象とした「夏休み薬草体験」を開催した。
- 国際協力拠点や部局間協定締結機関との国際共同研究を実施するとともに、タイ・チェラロンコン大学より客員教授を招聘し、和漢医薬学領域における、国際的な中核的研究機関として高い水準での活動を維持・発展させた。

## 2. 業務運営・財務内容等の状況

- 大学改革推進本部会議において、学長のリーダーシップの下、学内共同教育研究施設の組織見直しについて検討を重ね、平成 27 年 4 月から教育・学生支援機構及び研究推進機構の設置並びに地域連携推進機構の再編により、教育、研究、社会貢献の機能別に集約し、機動的かつ効率的な大学運営を行うこととした。【1】
- 学長の裁量が遺憾なく発揮できるように、平成 26 年度学長裁量経費執行方針において、当初予算段階で 211,214 千円を確保し、「中期計画」、「年度計画」及び「富山大学機能強化プラン」に必要な経費を戦略的に重点配分した。【9】
- 大学入試センター試験及び個別学力検査等において、配点の変更（経済学部(後期)、理学部物理学科(前期))による志願者の増加や、学外試験場新設（経済学部(前期)：名古屋市）による東海地区からの志願者の増加、多様な入試広報（高校訪問、大学見学、進学相談会等）の積極的な展開等により、一般入試志願者が三大学統合以来、過去最多となった。（志願者数：7,845 人、増加数は国立大学第 3 位）

○ 全体的な状況 (7)
--------------

### 3. 「今後の国立大学の機能強化に向けての考え方」を踏まえた取組状況

- ・ 「ミッションの再定義」を踏まえ、強みや特色を伸ばし、社会的な役割を一層果たすための教育研究組織づくりとして、大学院医学薬学教育部看護学専攻（博士後期課程）の設置（平成 27 年 4 月）や平成 28 年度に向けた教職大学院の設置（平成 26 年 3 月に設置計画書を提出）に取り組んだ。

#### 【2】

- ・ 理工系人材の育成強化として、「ミッションの再定義」を踏まえた理工系分野の強み・特色を強化する学部再編（新学部設置，理学部及び工学部の改組）構想をまとめ，文部科学省と協議を進めている。また，人文社会系の学生定員や教育研究組織のあり方についても，大学改革推進本部会議において，検討を行っている。【2】
- ・ 学長が教育研究に関する事項を決定するに当たり，「教授会の議を経て」あるいは「教授会の議に基づき」としていた内部規則の規定を，学内の意識改革を図るため，あえて「教授会の意見を聴いて」に改め，学長と教授会の役割を明確化した。【1】
- ・ 学長のリーダーシップの下で，戦略的に大学を運営できるガバナンス体制を構築するため，学部長，和漢医薬学総合研究所長及び附属病院長の選考方法を見直し，各教授会から 2, 3 人の候補者の推薦を求め，学長が最終的に学部長等を決定することとした。【1】
- ・ 監事の命を受けて監査業務を行う監事室を設置（平成 27 年 4 月）することとし，監事の機能を実質的に強化するための体制を整備した。【12】
- ・ 人事・給与システムの弾力化として，平成 27 年 4 月から年俸制を導入することを決定し，関係規則を制定した。

## ○ 項目別の状況

## I 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

## ① 組織運営の改善に関する目標

## 中期目標

- ① 管理運営組織の在り方
  - ・学長は学内コンセンサスの形成に留意しつつ、大学としての意思決定を適切に行う。
- ② 教育研究組織の見直しと学生収容定員
  - ・学術研究の進歩や社会の要請に応じ、教育研究組織の見直し、再編を進める。
  - ・社会の要請に対応して、学生定員を見直す。
- ③ 教員人事と業績評価
  - ・特命教員制度等を活用して、教育研究等の活性化を図る。
  - ・男女共同参画を推進する。
  - ・多様性を尊重した個人業績評価を策定し、処遇に反映するシステムを整備する。
- ④ 機動的・戦略的な学内資源配分
  - ・大学の人材、資金等の資源を有効に活用するため、戦略的及び評価に基づいた学内資源配分を行う。
- ⑤ 事務職員等の資質向上
  - ・事務職員等の専門的能力及び資質の向上を図る。

中期計画	年度計画	進捗状況	ウェイト
① 管理運営組織の在り方			
【1】 各種会議の効率的な運営に努めるとともに、執行部と部局との意思疎通の改善を図り、透明性の高い大学運営を行う。	【1】 引き続き各種会議の効率的な運営に努めるとともに、執行部と部局との意思疎通の改善を図り、透明性の高い大学運営を行う。	IV	
② 教育研究組織の見直しと学生収容定員			
【2】 時代・社会の要請に応える人材育成のため、教育研究組織の点検・見直しを行う。	【2】 ミッション再定義を踏まえ、教育研究組織の再編について検討する。	III	
【3】 地域社会の要請に応じて、学生定員について検証し、必要に応じて入学定員を見直す。	【3】 定員充足状況を検証し、必要に応じて見直し等を検討する。	III	
③ 教員人事と業績評価			

【4】 教員の選考・任用方法を点検評価し、改善を図る。	【4】 教育研究の活性化を重視しつつ、教員の選考・任用を実施する。	Ⅲ	
【5】 公募制を活用して人事の活性化を図り、優秀な人材を確保する。	【5】 公募制に関する指針に基づき、公募制を適切に運用する。	Ⅲ	
【6】 職場環境を整備し、男女共同参画を推進する。	【6】 男女共同参画の推進のため、各種事業を実施する。	Ⅳ	
【7】 専門分野と職位の多様性を考慮した業績評価システムを整備する。	【7】 教員業績評価を実施し、その結果を教育研究の活性化及び処遇に反映させる。	Ⅲ	
④ 機動的・戦略的な学内資源配分			
【8】 教育研究の活性化を図るために、学長裁量ポストを確保し、機動的に活用する。	【8】 学長裁量ポストを機動的に活用する。	Ⅲ	
【9】 学長裁量経費を維持し、本学が重点的に取り組む事項に配分し、事後評価も行い、戦略的・効果的な資源配分を実施する。	【9】 本学の機能強化プラン・学長メッセージを考慮し、学長裁量経費を戦略的・効果的に配分する。	Ⅲ	
【10】 部局長裁量経費等、部局の機動的な運営を可能にする方法を策定する。	【10】 引き続き「部局長等裁量経費」を措置するとともに、制度の検証、見直しを図る。	Ⅲ	
⑤ 事務職員等の資質向上			
【11】 事務職員等の専門性や資質の向上に資するため、多様な研修を実施する。	【11】 事務職員等の専門性や資質の向上に資するため、多様な研修を実施する。	Ⅲ	
		ウェイト小計	

I 業務運営・財務内容等の状況

- (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標
- ② 事務等の効率化・合理化に関する目標

中期  
目標

- ① 事務処理体制
  - ・事務処理の効率化・合理化を図るとともに教育研究体制に即した事務処理体制の構築を図る。

中期計画	年度計画	進捗 状況	ウェ イト
① 事務処理体制			
【12】グループ制の導入による効果等を検証し、必要な人員を確保しつつ、事務一元化を含め、教育研究体制と企画、管理・執行、サービスの機能に対応したグループの再構築を行う。	【12】事務組織の再構築に向けた検討を引き続き行う。	IV	
		ウェイト小計	
		ウェイト総計	



(1) 業務運営の改善及び効率化に関する特記事項等
---------------------------

## ○組織運営の改善

- ・ 全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を推進することにより、地方創生に貢献するため、平成 27 年 4 月に向け地域活性化推進本部を新たに整備した。【2】
- ・ 特定分野の複雑で高度な専門的業務を担うことができる能力を有する者について、その業務遂行能力に応じた職責を担う職位として、「高度専門職（課長級）」及び「専門職（課長補佐級）」を平成 27 年 4 月から新たに設けることとし、事務組織の充実及び強化を図った。【12】

## ○男女共同参画の推進

- ・ 富山県が実施する「女性が輝く元気企業とやま賞」を受賞した。受賞理由としては、富山県知事が認証する富山県男女共同参画推進事業所として行った以下のことが挙げられる。
  - ・ チーフ・オフィサーの設置
  - ・ 労働関係法令を遵守し、必要な措置を実施
  - ・ 女性管理職登用（平成 25 年度に 3 人の女性管理職が就任）や仕事と家庭の両立支援のための具体的な取組み（研究サポーター制度、ベビーシッター・休日保育利用料補助制度等）を継続実施した。
  - ・ 役員・副学長・学長補佐に占める女性比率が 6.3%に、部局長に占める女性比率が 20%に著増した。【6】

## ○事務等の効率化・合理化

- ・ 対外的な通用性を確保するため、事務組織の名称及び職名の一部改正を行った。また、文書決裁規則等を一部改正し、事務等の効率化・合理化を図った。【12】

## ○戦略的・効果的な資源配分，業務運営の効率化

- ・ 「教員人事プロセス」に基づき、役員会では人事管理の面，教育研究評議会では教育研究分野の面から、適切かどうかを審査し、教員の選考・任用を行っている。また、学長・理事による懇談会で補充の必要性等についての事前審査を行い、体制強化を図った。【4】
- ・ 平成 27 年 4 月採用のテニユアトラックを修了した教員の採用に係る人件費として、学長管理ポイントを充てることとした。【8】
- ・ 学部長裁量経費 12,000 千円を確保し、所属教員数に基づく基礎配分（基準分）と、科学研究費補助金の採択状況を基に評価したインセンティブ分を配分し、各学部の諸課題に応じた教育研究活動の活性化を図った。【10】

**I 業務運営・財務内容等の状況**  
**(2) 財務内容の改善に関する目標**  
**① 外部研究資金，寄附金その他の自己収入の増加に関する目標**

<b>中 期 目 標</b>	① 外部資金及び寄附金等 ・科学研究費補助金，大学教育改革支援経費など競争的研究教育資金の獲得を図るとともに，共同研究など産学官連携研究を推進する。 ② 自己収入 ・自己収入を伴う事業を実施するなど，自己収入の確保に努める。 ③ 附属病院収入 ・附属病院収入の増収を図り，診療・経営基盤を強化する。
----------------------------	--

中期計画	年度計画	進捗 状況	ウェ イト
① 外部資金及び寄附金等			
【13】各種競争的資金の獲得や受託研究，共同研究，寄附金などの受入れ件数や獲得額について，第1期中期目標期間の水準の維持・増加を図る。	【13】各種競争的資金の申請，共同研究，受託研究，寄附金などの受入件数等の維持・増加策について，必要に応じて改善等を図る。	III	
【14】富山大学基金を設置・充実し，教育研究への活用を図る。	【14】富山大学基金の募金を継続するとともに，募金の方法及び基金を教育研究に活用する具体策等を検討する。	IV	
② 自己収入			
【15】大学が保有する施設，知的財産の活用や公開講座等により，自己収入を確保する。	【15】自己収入の結果を分析し，新規事業を含む増収方策等の検証，見直しを行う。	III	
③ 附属病院収入			
【16】附属病院の診療機能の充実，新病棟増築に伴う個室病床の増等による増収に努める。	【16】平成 25 年度の病院収支指標による評価を行い，進捗状況が不十分な項目について対策を強化する。また，手術室増室による手術件数の増等病院再整備事業による増収計画を着実に実行する。	III	
ウェイト小計			

I 業務運営・財務内容等の状況  
 (2) 財務内容の改善に関する目標  
 ② 経費の抑制に関する目標

中期目標	① 人件費の削減 ・「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)に基づき、平成18年度以降の5年間において国家公務員に準じた人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。 ② 人件費以外の経費の削減 ・経費の抑制に向けて業務の見直しを行う。
------	--

中期計画	年度計画	進捗状況	ウェイト
① 人件費の削減			
【17】「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)に基づき、国家公務員に準じた人件費改革に取り組み、平成18年度からの5年間において、△5%以上の人件費削減を行う。更に「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。	【17】ポイント制の活用等により、人件費を適切に管理する。	III	
② 人件費以外の経費の削減			
【18】契約方法等を見直し、経費の節減と事務の省力化を図る。	【18】契約方法(スポット、年間、複数年)や仕様の見直し等による経費節減方策を検討し、可能なものから実施する。	III	
		ウェイト小計	

- I 業務運営・財務内容等の状況  
 (2) 財務内容の改善に関する目標  
 ③ 資産の運用管理の改善に関する目標

中期目標	① 資産の有効利用 ・大学が保有する資産の効果的・効率的な運用を図る。
------	--

中期計画	年度計画	進捗状況	ウェイト
① 資産の有効利用			
【19】 土地・建物・設備，その他の資産を効率的に運用する。	【19-1】 土地・建物・設備等の利用状況を評価・分析し，改善が必要なものについては措置を講じる。	III	
	【19-2】 流動資金（普通預金）について，資金繰り計画及び資金運用要項に基づき，資金運用を行う。	III	
		ウェイト小計	
		ウェイト総計	

(2) 財務内容の改善に関する特記事項等
----------------------

## ○外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加

- ・ 定期的に役員会等に共同研究等の受入状況資料を提示し現況把握に努め、共同研究 210 件 170,000 千円、受託研究 173 件 720,000 千円、寄附金 881 件 859,000 千円を獲得した。【13】
- ・ 学内に自動販売機を設置している業者（3 社）から、恒常的な寄附の申し出を受け 13,290 千円の増収につながった。【14】

## ○経費の抑制

- ・ 杉谷キャンパスにおける建物清掃業務請負の契約単位を、単年度契約から二年間の複数年契約に見直した結果、年間あたり 8,933 千円の経費節減となった。【18】
- ・ 学生寮の管理業務及び五福構内環境整備業務を、一契約に集約し一般競争入札に付した結果、2,550 千円程度の経費節減となった。【18】
- ・ 院外処方の推進に伴う医薬品費の削減により、医療経費は当初目標より 278,876 千円の減となった。【18】

## ○資産の運用管理の改善

- ・ 資金運用要項に基づき、資金運用計画を策定し余裕金の運用を行った結果、12,482 千円（一般財源で 2,764 千円、寄附金財源で 9,718 千円）の利息収入を得た。なお、対前年度比 914 千円の収入増となった。（平成 25 年度受取利息額：11,568 千円）【15】
- ・ 固定資産に係る減損の兆候があった伏木宿舎について、現況有姿による売却を決定した。【19-1】

## ○随意契約に係る情報公開等を通じた契約の適正化

- ・ 国立大学法人富山大学随意契約公表基準に基づき、公表の対象となる契約については、随意契約によることとした理由等をホームページ上で公表している。

## ○財務情報に基づく財務分析結果の活用状況

- ・ 外部資金の獲得状況を踏まえ、競争的資金の獲得を戦略的に行うための経費を全学的共通経費で措置し、コーディネーターの配置、各省庁における競争的資金の公募状況等に関する情報収集、基礎資料のデータ整理等を行い、競争的資金獲得への意識の醸成を図った。【13】

## I 業務運営・財務内容等の状況

## (3) 自己点検・評価及び情報提供に関する目標

## ① 評価の充実に関する目標

中期  
目標

## ① 評価の充実

・認証評価等の外部評価を受け、評価結果を教育研究の質の向上及び大学の運営の改善に反映させる。

中期計画	年度計画	進捗 状況	ウェ イト
① 評価の充実			
【20】平成23年度までに認証評価を受審し、評価結果を教育研究の質の向上及び業務改善等に活用する。	【20】機関別認証評価の結果及び改訂された大学評価基準に基づいて、教育活動等の充実・改善を推進する。	III	
【21】自己点検評価、外部評価等の評価結果を教育研究の改善に活用する。	【21】年度計画の進捗管理を行うとともに、評価結果を改善に繋げていく。	III	
			ウェイト小計

I 業務運営・財務内容等の状況  
 (3) 自己点検・評価及び情報提供に関する目標  
 ② 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

中 期 目 標	① 情報公開の推進 ・社会に対する説明責任を果たし，大学の活動についての関心を高め，理解を深めるために，広報活動を強化する。
------------------	---

中期計画	年度計画	進捗 状況	ウェ イト
① 情報公開の推進			
【22】 社会に開かれた大学として，大学の管理運営・教育研究活動・財務内容等の情報を，個人情報保護に留意して公開するとともにウェブサイトの充実を図り，報道機関等を通じて，大学の活動状況を積極的に社会に発信する。	【22】 ウェブサイトの情報充実と報道機関等を利用した情報発信の活性化を図るとともに，広報誌の内容充実を図る。	III	
		ウェイト小計	
		ウェイト総計	

(3) 自己点検・評価及び情報提供に関する特記事項等
----------------------------

## ○評価の充実

- ・ 学生の授業評価アンケートを実施し、その結果を各教員へフィードバックした。【20】

## ○自己点検・評価の着実な取組及びその結果の法人運営への活用

- ・ 年度計画の進捗状況及び実施状況等の確認を6月、8月、11月の3回実施した。計画事項の進捗状況を把握し、以後の取り組みの促進を図った。【21】
- ・ 平成25年度法人評価において指摘された課題について、役員会への報告及び各部局への周知を行った。また課題に対して、担当部局から全教職員への周知徹底や指摘課題の現状調査を行うなどの改善を行った。【21】

## ○情報公開や情報発信等の推進

- ・ 背景と文字のコントラストを高めて見やすくするなどのユーザビリティ（使いやすさ）を意識したウェブサイトの改善を行った。その結果、日経BPコンサルティングが行った「全国大学サイト・ユーザビリティ調査2014/2015」において、総合スコアランキングで1位を獲得した。【22】

## ○情報公開の促進

- ・ 富山大学が文化、知識の発信拠点として地域にどのような役割を果たしてきたかを広く県民に発信することを目的とし、本学の歴史を紹介する番組「富山大学ヒストリア」を制作し放送した。さらに、「富山大学ヒストリア」の映像に、学長と富山県知事などが富山大学の未来や富山県の教育についての対談を加えた「富山大学ヒストリア総集編」を制作し放送した。同番組はYou Tube（動画共有サイト）でも配信し、広く公開している。【22】

- ・ NHK-BS1 の国際情報番組「地球アゴラ」にて人文学部、工学部、芸術文化学部の取組みを発信し、広く公開を行った。【22】
- ・ 地域特化型電子書籍ポータルサイト「富山イーブックス」において、「TOM'S PRESS」を掲載し、本学以外のウェブサイトにおいても広く公開を行った。【22】

## ○従前の業務実績の評価結果における課題事項に係る取組状況

- ・ 平成21年度から平成23年度にかけて定員充足率が90%未満であった大学院博士後期課程について、組織及び入学定員の見直し、入学料免除制度の拡大、教育プログラムの策定、教育部間での教員や分野の見直し等を行うことにより、平成24年度に充足率100%を達成した。その後も充足率100%以上を維持しており、入学志願状況等をもとにした分析結果によると、現在の定員規模であれば今後も充足率100%以上は維持されるものと考えている。



I 業務運営・財務内容等の状況

(4) その他業務運営に関する重要目標

① 施設設備の整備・活用等に関する目標

中期目標	① 施設マネジメントとキャンパス環境の整備 ・本学が目指す教育，研究，社会貢献，医療等の活動を支援する施設とキャンパス環境を整備充実し，有効利用に努め，適切に維持管理する。
------	---

中期計画	年度計画	進捗状況	ウェイト
① 施設マネジメントとキャンパス環境の整備			
【23】 総合的な施設計画を盛り込んだ「キャンパスマスタープラン2007」の検証・見直しを行い，2011年版を作成し，これに基づき安全安心で快適なキャンパスの施設・環境の整備を推進する。	【23】 「キャンパスマスタープラン2011」に基づきキャンパス整備を推進する。	IV	
【24】 既存施設の有効利用に努めるとともに，教育研究の変化等に弾力的に対応するため，全学として教育研究スペースの概ね20%を共同利用化する。	【24】 施設の共同利用化を推進する。	III	
【25】 施設設備を安全で快適に利用できるようにするため，利用者による自主点検と連動して，修繕必要箇所の計画的解消や予防保全を実施する体制を構築し，施設の長寿命化と費用対効果に配慮した維持管理を行う。	【25】 引き続き施設の利用状況自主点検及び施設の現地調査を行うことにより施設修繕計画を見直し，計画的な修繕を実施する。	III	
		ウェイト小計	

- I 業務運営・財務内容等の状況  
 (4) その他業務運営に関する重要目標  
 ② 安全管理に関する目標

- 中期目標  
 ① 安全衛生管理  
 ・労働安全衛生法等を踏まえ、学生及び教職員に対する安全衛生管理体制を充実し、健康で、学びやすく、働きやすい環境作りを進める。  
 ② 環境配慮  
 ・環境配慮促進法等を踏まえ、持続可能な社会の形成に向けた事業活動を推進する。

中期計画	年度計画	進捗状況	ウェイト
① 安全衛生管理			
【26】安全衛生の面から全学的な点検調査を行い、必要な設備機器を整備し、安全衛生管理を推進する。	【26】設備機器の安全点検計画を実施し、安全衛生管理を推進する。	III	
【27】安全に関する手引き等を整備・充実し、安全講習会や研修等を実施し、定期的に防災訓練を実施する。	【27】安全教育講習会及び防災訓練を実施し、その成果・効果・改善点を整理する。	III	
【28】学生・教職員のメンタルヘルスを含む包括的な健康支援（トータル・ヘルス・サポート）を推進する。	【28-1】オンライン（IT）とオフライン（対面相談）によるメンタルヘルス支援を含む学生の包括的な健康支援（トータル・ヘルス・サポートシステム）を推進する。	III	
	【28-2】教職員の健康増進に向けて、教職員のメンタルヘルスを含む包括的な健康支援を推進する。	III	
	【28-3】自殺防止対策に係る活動を推進する。	III	
② 環境配慮			
【29】全学的な環境側面の調査を実施し、環境教育マニュアル等を整備するとともに、学生・教職員等の全構成員による省エネルギー活動と廃棄物の適正管理等を推進する。	【29】環境教育マニュアルに基づき、構成員の意識向上を図り、環境活動（省エネ・廃棄物適正管理等）を推進する。	III	
		ウェイト小計	

- I 業務運営・財務内容等の状況  
 (4) その他業務運営に関する重要目標  
 ③ 法令遵守に関する目標

中期目標	① 法令遵守 ・公正な職務遂行を確保するため、法令等の遵守の仕組みを整備するとともに、情報管理体制を整備し、情報セキュリティの向上を図り、地域社会から信頼され、透明性ある大学運営を行う。
------	--

中期計画	年度計画	進捗状況	ウェイト
① 法令遵守			
【30】構成員の法令遵守及び情報セキュリティの意識向上を促すため、研修等により啓発するとともに、内部統制システムを整備し、その検証を行う。	【30】法令遵守及び情報セキュリティの推進のため、研修等の実施により役職員の意識向上を図る。	III	
		ウェイト小計	
		ウェイト総計	

(4) その他業務運営に関する重要事項に関する特記事項等
------------------------------

## ○施設設備の整備・活用

- 地球環境に配慮した教育研究環境の実現のため、環境負荷低減に係る啓蒙活動の推進、設備機器のエコ改修及び ESCO 事業によるエネルギー消費量削減等の取り組みの結果、5 年間でエネルギー消費原単位 11.0%の削減（平成 21 年度比）を達成した。これは、国が基準としている 5 年間で 5%の削減努力目標に対し、2.2 倍の削減を達成している。【23】
- スペースチャージ制度で確保した使用料約 2 億円を活用し、部局等施設の計画的な修繕を実施した。【23】
- 老朽化解消整備として、7 棟・延面積約 16,000 m<sup>2</sup>、狭隘化解消整備として、9 棟・延面積約 17,000 m<sup>2</sup>、事業費約 64 億円の整備を実施し、教育研究基盤施設の機能強化を図った。【23】
- 共同利用スペースとして総合教育研究棟（工学系）で 1,156 m<sup>2</sup>、医薬イノベーションセンター（医薬系）で 1,933 m<sup>2</sup>、理学部 1 号館で 76 m<sup>2</sup>、合計で 28,705 m<sup>2</sup>を確保し、共同利用化の比率は 22.5%となり平成 25 年度に引き続き第 2 期中期計画の数値目標である 20%を達成し共同利用化を進めた。【24】

## ○安全管理に関する取組

- 薬品管理の徹底を図るため、全キャンパス一斉の毒劇物定期検査を実施した。検査では、毒物及び劇物の盗難、紛失、その他の事故等の防止及び毒劇物の適正管理の推進を目的として、専用保管庫の設置状況、施錠状況及び鍵の管理状況、受払い記録の実施状況等を確認した。

## ○法令遵守（コンプライアンス）に関する体制及び規程等の整備・運用

- 環境マネジメント、化学物質管理、安全衛生管理を効率的且つ効果的に行うことを目的として、環境安全衛生マネジメント体制を構築するとともに関連する規則の整備を行った。【26】
- 反社会的勢力との関係遮断に取り組むため、反社会的勢力に対する基本方針を定めた。

## ○災害、事件・事故等に関する危機管理の体制及び規程等の整備・運用

- 富山大学危機管理ガイドライン等の改正を行い、学内グループウェアで周知を行った。
- 3 キャンパス及び寺町団地に、災害対策プラザを建設し、防災対策の推進と危機管理機能のバックアップの充実を行った。【23】

## ○公的研究費の不正使用防止に向けた取組

- 科学研究費補助金等競争的資金助成事業に係る研究代表者、研究分担者及び大学推薦の助成事業採択者等に対して、研究倫理教育として CITI Japan プロジェクトによる e-learning 「第 1 章 責任ある研究行為」を受講させた（受講者 695 人）。

## ○研究活動における不正行為の防止のための取組

- 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、不正防止計画の改定について検討し、平成 27 年 4 月 1 日付けで「富山大学研究不正防止対応計画書」を策定した。

(4) その他業務運営に関する重要事項に関する特記事項等
------------------------------

## ○個人情報等の適切な管理のための取組

- ・ 「独立行政法人等の保有する個人情報の適切な管理のための措置に関する指針」の改正に伴い、情報システムにおける安全確保、情報システム室等の安全管理及び業務の委託に係る措置の強化のため、個人情報保護規則を改正した。

## ○教員等個人宛寄附金の個人経理防止に向けた取組

- ・ 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に対応した、コンプライアンス推進責任者の役割明記、コンプライアンス教育と研究倫理教育の実施及び誓約書等の提出を求める一部改正を行い、学内への周知を行った。
- ・ 研究者本人が直接民間助成財団等から助成金を受けた場合は、改めて本学に寄附しなければならないことの学内周知を行った。また、学内 LAN を活用し全教職員に周知を図るべく、年度当初に物品請求システムを使用する際に、「本学では研究費の個人経理を禁止」している旨の確認画面が現れ、確認ボタンを押さなければ同システムを使用できないように改修した。2月に行った学内調査の結果は、個人経理が0件であり、個人が受け取った助成金も含め全ての研究助成金が機関経理されており、学内周知及びシステム改修の成果があった。

## ○教員が研究業績の虚偽記載を行っていた事例があったことから、再発防止に向けた取組

- ・ 富山大学研究不正防止対応計画書を策定し、コンプライアンス推進責任者（各部署長）に研究倫理教育について実質的な責任と権限を持たせ、実

施する説明会や e-learning 教育により研究活動における不正防止に関する啓発を行った。

**II 予算（人件費見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画**

※ 財務諸表及び決算報告書を参照

**III 短期借入金の限度額**

中期計画	年度計画	実績
1 短期借入金の限度額 34億円  2 想定される理由 運営費交付金の受け入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定されるため。	1 短期借入金の限度額 34億円  2 想定される理由 運営費交付金の受け入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定されるため。	実績なし

**IV 重要財産を譲渡し、又は担保に供する計画**

中期計画	年度計画	実績
○ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 1 重要な財産を譲渡する計画 富山大学伏木宿舎の土地及び建物（富山県高岡市伏木矢田403番地2 3,130.01㎡（建物延面積1,279.66㎡））を譲渡する。 富山大学人間発達科学部農場実習地の土地の一部（富山県富山市花園町四丁目13番2外 353.03㎡）を譲渡する。  2 重要な財産を担保に供する計画 附属病院の施設・設備の整備に必要な経費の長期借入に伴い、本学の土地及び建物を担保に供する。	○ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 1 重要な財産を譲渡する計画 富山大学伏木宿舎の土地及び建物（富山県高岡市伏木矢田403番地2 3,130.01㎡（建物延面積1,279.66㎡）の譲渡手続きを進める。 富山大学人間発達科学部農場実習地の土地の一部（富山県富山市花園町四丁目13番2外 353.03㎡）を譲渡する。  2 重要な財産を担保に供する計画 附属病院の施設・設備の整備に必要な経費の長期借入に伴い、本学の土地及び建物を担保に供する。	1 重要な財産を譲渡する計画 ・伏木宿舎の譲渡前不動産精査（不動産鑑定評価、土地測量等）を実施した。 ・人間発達科学部農場実習地の土地の一部を譲渡した。  2 重要な財産を担保に供する計画 ・附属病院の施設・設備の整備に必要な経費の長期借入に伴い、本学の土地及び建物を担保に供した。

V 剰余金の使途
----------

中 期 計 画	年 度 計 画	実 績
<p>○ 決算において剰余金が発生した場合 教育研究、診療の質の向上及び組織運営の改善に充てる。</p>	<p>○ 決算において剰余金が発生した場合 教育研究、診療の質の向上及び組織運営の改善に充てる。</p>	<p>教育研究及び診療の質の向上及び組織運営の改善に資する経費 取崩額 91百万円（建物改修）</p>

VI その他	1 施設・設備に関する計画
--------	---------------

中期計画			年度計画			実績		
施設・設備の内容	予定額 (百万円)	財源	施設・設備の内容	予定額 (百万円)	財源	施設・設備の内容	決定額 (百万円)	財源
附属病院病棟新営 杉谷キャンパス基 幹環境整備 五福キャンパス学 生会館改修 病院特別医療機械 整備費 小規模改修	総額 5,735	施設整備費補助金 (787) 長期借入金 (国立大学財務・ 経営センター) (4,152) (民間金融機関) (424) 国立大学財務・経 営センター施設費 交付金 (372)	附属病棟等改修 (中診・外来棟 ) 基幹・環境整備 総合研究棟Ⅱ (医 学薬学系) 等 老朽対策等基盤 整備事業 病院特別医療機 械整備費 小規模改修	総額 6,997	施設整備費補助金 (5,955) 国立大学財務・経 営センター施設費交 付金 (67) 長期借入金 (国立大学財務・ 経営センター) (975)	基幹・環境整備, (杉谷) 講義棟 改修, (五福) 情報処 理センター改修, (五福) 総合研 究棟 (工学系), (五福) ライフ ライン再生 (ガ ス設備等), (高岡) ライフ ライン再生 (給 水設備等), 小規模改修, 学生支援センター 改修, (杉谷) 図書館 改修, (杉谷) 総合研 究棟 (医学薬学 系), (杉谷) 防災機 能強化 (水の確 保・ヘリポート) 災害復旧, 地域住民の避難 場所としての機 能確保対策 (災 害用備蓄倉庫), 地域住民の避難	総額 7,133	施設整備費補助 金 (5,081) 設備整備費補助 金 (246) 国立大学財務・ 経営センター施 設費交付金 (67) 長期借入金 (国立大学財務・ 経営センター) (965) (運営費交付金 (復 興関連事業分)) (774)



						<p>場所としての機能確保対策（太陽光パネル），附属病院改修（中診・外来棟），総合研究棟改修（医学系）          大容量・高速医療情報ネットワークシステム，          薬物・生体分子相互作用解析システム          超高速CT撮影診断装置システム</p>			
<p>(注1) 施設・設備の内容，金額については見込みであり，中期目標を達成するために必要な業務の実施状況等を勘案した施設・設備の整備や老朽度合い等を勘案した施設・設備の改修等が追加されることもある。          (注2) 小規模改修について平成22年度以降は平成21年度同額として試算している。          なお，各事業年度の施設整備費補助金，国立大学財務・経営センター施設費交付金，長期借入金については，事業の進展等により所要額の変動が予想されるため，具体的な額については，各事業年度の予算編成過程等において決定される。</p>			<p>(注) 金額は見込みであり，上記のほか，業務の実施状況等を勘案した施設・設備の整備や，老朽度合い等を勘案した施設・設備の改修等が追加されることもあり得る。</p>						

VI その他	2 人事に関する計画
--------	------------

中期計画	年度計画	実績
<p>① 教員の選考・任用方法を点検評価し、改善を図る。</p> <p>② 公募制を活用して人事の活性化を図り、優秀な人材を確保する。</p> <p>③ 職場環境を整備し、男女共同参画を推進する。</p> <p>④ 専門分野と職位の多様性を考慮した業績評価システムを整備する。</p> <p>⑤ 業務全般について点検評価し、中長期的な観点に立った適正な人員配置を進める。</p> <p>⑥ 事務職員等の専門性や資質の向上に資するため、多様な研修を実施する。</p> <p>(参考) 中期目標期間中の人件費総額見込み 89,516百万円(退職手当は除く)</p>	<p>① 教育研究の活性化を重視しつつ、教員の選考・任用を実施する。</p> <p>② 公募制に関する指針に基づき、公募制を適切に運用する。</p> <p>③ 男女共同参画の推進のため、各種事業を実施する。</p> <p>④ 教員業績評価を実施し、その結果を教育研究の活性化及び処遇に反映させる。</p> <p>⑤ 事務職員等の専門性や資質の向上のために多様な研修を実施する。</p> <p>(参考1) 平成26年度の常勤職員数 1,758人 また、任期付職員数の見込みを352人とする。</p> <p>(参考2) 平成26年度の人件費総見込み 18,236百万円(退職手当は除く。)</p>	<p>① 「教員人事プロセス」に基づき、役員会では人件費ポイントを用いて人事管理の面から、教育研究評議会では教育研究分野の面から、適切かどうかを審査し、教員の選考・任用を行った。</p> <p>② 「富山大学における教員採用・選考についての指針」に基づき適切に運用した。 教授の採用比率 平成26年度:62.5% (16人を採用し、うち10人は公募)</p> <p>③ ・富山県作成の「女性が輝く元気企業とやま賞」受賞企業及び「男女共同参画推進事業所」PRパンフレットに掲載 ・平成26年度男女共同参画チーフ・オフィサー(CGEO)第2回講演会で「女性が輝く元気企業とやま賞」受賞企業事例報告(1/20) ・平成26年度男女共同参画チーフ・オフィサー設置申請(平成26年7月22日付で委嘱状交付) ・富山県主催の元気とやま働く女性ネットワーク「煌めく女性リーダー塾」(第2期生)に受講生参加 ・サンフォルテフェスティバル2014「男女共同参画週間 Duoのつどい(6/28)」にポスター参加 ・内閣府男女共同参画局が共催する「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」に応募 ・内閣府男女共同参画局の理工チャレンジに、リコチャレキャラクターを配したポスターを6学科分作成し、理学部オープンキャンパスで掲示(8/6) 内閣府のチャレンジサイトにも掲載(8/1) ・文部科学省主催「女性研究者研究活動支援事業シンポジウム2014-女性研究者支援とダイバーシティ・マネジメント-」にポスター及び次世代育成分科会に参加(11/26) ・平成25年度に金沢大学が採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(拠点型)」の連携機関として協力</p>

		<p>・女性教職員の比率46.7%(1008人), 教員に占める割合17.9%(161人), 職員に占める割合67.6%(847人) ※平成26.5.1現在(国大協提出データより)</p> <p>④ 第15回教員業績評価委員会(6月12日開催)において,各学部の特異性に合わせた評価が行われていること,また,評価結果が,昇給時に良好以上の候補者決定の参考資料として使用されていること及び学長裁量分における選考要件とされていることなどから,適正かつ有効に実施・使用されていることを確認した。その結果,根本的な見直しの必要がないとして,引き続き現行のシステムを利用した教員業績評価を実施した。</p> <p>⑤ 研修検証効果を踏まえて,新任職員を対象とした「フレッシュ職員研修」で,本学に関する基礎的知識の習得の充実を図るため,新たに「富山大学ヒストリア」(講師:学長補佐),「キャンパスツアー(杉谷キャンパス,高岡キャンパス,五艘(附属学校),附属図書館(ヘルン文庫))」を実施した。</p>
--	--	---

## ○ 別表(学部の学科, 研究科の専攻等の定員未充足の状況)

学部の学科, 研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
	(a)	(b)	(b)/(a) × 100
	(人)	(人)	(%)
<b>【学士課程】</b>			
人文学部	754	818	108.5
人文学科	740	818	110.5
3年次編入学(各学科共通)	14		
人間発達科学部	680	717	105.4
発達教育学科	320	326	101.9
人間環境システム学科	360	391	108.6
経済学部	1,640	1,755	107.0
経済学科 昼間主コース	540	576	106.7
夜間主コース	80	94	117.5
経営学科 昼間主コース	460	506	110.0
夜間主コース	80	91	113.8
経営法学科 昼間主コース	380	399	105.0
夜間主コース	80	89	111.3
3年次編入学(各学科共通)	20		
理学部	928	1,029	110.9
数学科	200	214	107.0
物理学科	160	189	118.1
化学科	140	160	114.3
生物学科	140	156	111.4
地球科学科	160	171	106.9
生物圏環境科学科	120	139	115.8
3年次編入学(各学科共通)	8		
医学部	990	1,013	102.3
医学科	625	676	108.2
医学科2年次編入学 (うち医師養成に係る分野650人)	25		
看護学科	320	337	105.3
看護学科3年次編入学	20		
薬学部	530	558	105.3
薬学科	330	346	104.8
創薬科学科	200	212	106.0

学部の学科, 研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
工学部	1,660	1,798	108.3
電気電子システム工学科	352	397	112.8
知能情報工学科	288	313	108.7
機械知能システム工学科	360	423	117.5
生命工学科	208	222	106.7
環境応用化学科	208	226	108.7
材料機能工学科	204	216	105.9
物質生命システム工学科(※2)	0	1	-
3年次編入学(各学科共通)	40		
芸術文化学部	460	508	110.4
芸術文化学科	460	508	110.4
<b>学士課程 計</b>	<b>7,642</b>	<b>8,196</b>	<b>107.25</b>
<b>【修士課程, 博士前期課程】</b>			
人文科学研究科	16	16	100.0
人文科学専攻	16	16	100.0
人間発達科学研究科	52	52	100.0
発達教育専攻	26	22	84.6
発達環境専攻	26	30	115.4
経済学研究科	36	46	127.8
地域・経済政策専攻	12	18	150.0
企業経営専攻	24	28	116.7
芸術文化学研究科	16	25	156.3
芸術文化学専攻	16	25	156.3
医学薬学教育部	132	173	131.1
医科学専攻	30	28	93.3
看護学専攻	32	37	115.6
薬科学専攻	70	108	154.3

